

第3 種郵便物認可

北海道新聞

2022年(令和4年)2月10日(木曜日)

カフェなどの4月開業を目指す歌原大悟さん



1階に開業するカフェのイメージ画(合同会社ポータル提供)



樽商大生運営の商業施設

第2弾はカフェ、ゲストハウス

小樽商科大生が設立した合同会社「PoRtaru (ポータル)」は、4月に小樽の繁華街・花園地区にある4階建ての建物にカフェやゲストハウスを開業する。資金の一部はクラウドファンディング(CF)での調達を計画。この建物では既にシェアハウスを開業しており、地域活性化に向けて相乗効果を狙う。

(谷本雄也)

施設名は「コミュニティベース Tug-B(タグビー)」。昨年12月には3階部分にシェアハウスを開業。建物を所有する札幌の不動産企画会社「大人」(五十嵐慎一郎社長)と業務提携し、ポータルが運

営を担っている。さらに別の階にカフェなどの施設をオープンさせることで、商大生だけでなく住民や観光客が気軽に立ち寄れるようにし、地域に開いた交流地点を目指す。1階は昼はカフェ、夜はパ

4月開設へ資金募集

ーとして学生や住民、観光客が立ち寄って交流できる憩いの場とする。夜の繁華街にあまり足を運んでいない学生や旅行者らが、夜も滞在するきっかけづくりも狙う。2階はゲストハウスとし、本棚などを配置した「泊まれる図書館」をコンセプトに、ゆったりとした空間を目指す。4階は共用の仕事場「コワーキングスペース」として活用する。ポータルの事業責任者を務める歌原大悟さん(22)は「3階で暮らして1階で働くなど、それぞれに合った形で楽しんでもらえるようになれ

ば」と話す。

自己資金で足りない経費を賄おうと、CFで1月末から寄付を募り始めた。カフェとゲストハウスの改装に関する経費250万円を目標額に設定。9日現在、約130万円が集まっている。目標額を超えた場合は、カフェで提供する新商品の開発や、地下、屋上など未利用スペースの活用を進める考え。

歌原さんは「新しい出会いや化学反応が生まれる場所となり、小樽を少しでも元気にできれば」と話す。

寄付はCFサイト「アクトナウ」のページ(<https://actnow.jp/project/tug-b/detail>)で3月31日まで受け付ける。問い合わせはポータルのメールinfo@tug-b.comへ。

火をともし写真投稿して SNSコンテスト作品募集

「第24回小樽雪あかりの路」(11月13日)の実行委は、市民にろうそくを無料配布して各地であかりをともしもらう「あかり人」事業の写真を募る「SNSフォトコンテスト」を実施している。

「あかり人」が自らともしたらうそくを撮影し、ツイッターやインスタグラムに投稿する。入賞者には市内ホテルのペア宿泊券やすし店の食事券、海産物が贈られる。20日まで。

同実行委は、期間中に市内でと

もするろうそくを増やすクラウドファンディング(CF)事業も実施中だ。小樽商科大の学生団体が寄付者に代わってろうそくをともし、返礼品として、その様子をメールで送ったり、ポストカードを郵送したりする。返礼品は寄付額によって異なる。寄付は101500円から。13日まで。

いずれのイベントも詳しくは実行委ホームページ(<http://yukia.karimich.org/>)を。

(鈴木孝典)